

P12 千島海溝南西周辺海域における3D海底地形(アナグリフ)

第五管区海上保安本部 泉 紀明  
(発表者) 技術・国際課 海洋研究室 西澤あずさ  
海洋調査課 大陸棚調査室 堀内大嗣  
海洋研究開発機構 木戸ゆかり  
広島大学 中田 高・後藤秀昭

千島(-カムチャツカ)海溝は、太平洋プレートが北米プレートの下に沈み込んで形成された海底地形であり、北海道南東沖から千島列島南岸に沿い、カムチャツカ半島まで約2,000 kmに及ぶ。海溝南西端では襟裳海山が日本海溝との接合点に存在しており、海溝南西周辺の海溝軸付近水深は7000 mを超えている。

この海域では過去に十勝沖地震(1843年、1952年、2003年)、根室半島沖地震(1894年、1973年)などM7~8程度の地震が繰り返し起こり、津波被害も発生している。

海底地形・海底活断層の判読を行うことを目的として、150mグリッドDEM(Digital Elevation Model)の作成を行った。水深データ作成において、海上保安庁および海洋研究開発機構ほかから得た測深データを用いて立体視できる画像を作成した。

特徴的な地形としては釧路沖に長く延びる釧路海底谷があり、海底谷の東と西では陸棚斜面の様相が変化している。釧路海底谷では逆断層運動に伴う断層崖や規模の大きい地すべり地形の発達が見られる。

